

## 審査員全体講評

(2023年8月6日 浦添市 アイム・ユニバースてだこホールにて)

### 松川先生(以下、M)：

お客さんが聴き入るのは、「テンポ感が、この音がどこに向かうんだろう？」という点。いい声だけど、どこに行こうとしているのか、向かう先が分からない。今後の合唱人口を増やすためにも、聴きに行った人が「このように流れているんだ」という、流れを感じられることがすごく重要。息の流れがはっきりしない。

それとG4について、あれは4人の和歌が歌詞になっているから、同じ「あ」という母音でも詠み手によって色んな母音がある。それをずっと同じ「あ」という母音でやっていたら、やっぱり平凡になる。

ピアノ(の演奏)がいい人もいますよね。聴き合って、いいものを盗んでいってくれば、と思います。

### 樋口先生(以下、H)：

小学生のうちから豊かな声を持っているなど思う。それは沖縄の豊かな自然とか豊かな文化とか、私たちが真似することができないような深い声を、呼吸が深く、小学生からこんな声出すんだみたいな声が出せる。だから声の素材としては沖縄は独特で素晴らしいなと思いました。心が熱いので、たぎる何かを持っていてそれはとっても素晴らしい。

でも、「あと少しの計算」みたいなもの(が欲しい。)いつも仕掛けが早いと思っちゃう。もうちょっと、「弱音の美」みたいなもので聴かせてくれるといいなって思う。一生懸命になり過ぎてハーモニーが崩れてしまった時に、なんてもったいないんだろう(と思った。)そこまで出さなくても、ハーモニーが整ってさえいれば薫り立つものもあるのに、頑張りすぎてちょっとその薫りを失う部分があったのは惜しかったな。

でも、持っている声が素晴らしいな、小さい時から持っているんだ、と思って、これって九州の宝だなと思いながら聴かせていただきました。

### 塩浜先生(以下、S)：

やっぱり言葉が若干気になるところがいくつかあった。せっかく良い声を持っているのに…。(他の審査員に向かって)あの、「Gloria」(という歌詞)が「Gloria」に聞こえました？

H：あ、私も講評に「Lの発音が飛んでる」って書きました。

S：そうそう、子音がね、そう、僕も「あれ？」と思って、楽譜を見直した。言葉をもう少ししっかり掘り下げてほしい。これは日本語も。特に語尾で、せっかくいい音で繋がってきているけど語尾がはっきりしないという点。…この辺でしょうね、課題としては。

M：沖縄の人って真面目な人が多いのかな？いろいろな「かつぱ」があっというんじゃないか。河童の絵を描かせたら色んなのが出てくるでしょ、そんな感じで。もっと遊んでいいのにな。

H：私も書いたような気がします。

M：まあでも、皆さんよく歌ってたと思いますよ。

H：直前に練習もできなかったのに。

S：少人数の団体はピッチも揃い、練習の中身は濃くなっているのかなと思った。個人個人の責任感が強いのかな。

事務局：長い時間ありがとうございました。

聞き取り：沖縄県合唱連盟事務局

※本文中の丸括弧は全て、連盟事務局による注釈